

平成31年度

単位施策評価表

所属 38100000

生涯学習部 生涯学習課

施策	5201 生涯学習環境の充実							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民							
施策が目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域が連携・協働した教育・ボランティア活動の充実。 ・生涯学習の拠点となる施設の整備充実及び利用促進。 							
成果指標	とちぎ未来アシストネット事業による教育効果充実度...5年間で70.0%(現状値62.8%) とちぎ未来アシストネット事業ボランティア交流会参加者数...5年間で250人(現状値178人) 社会教育施設利用者数...5年間で832人(現状値782,875人)							
目 標 達 成 状 況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標1 [%]	予定	64.20	65.70	67.10	68.60	70.00	
		実績	64.20	71.30				
	成果指標2 [人]	予定	195.00	210.00	225.00	240.00	250.00	
		実績	169.00	194.00				
		単位コスト	2,163.89	2,370.35				
	成果指標3 [人]	予定	793,000.00	803,000.00	812,000.00	822,000.00	832,000.00	
		実績	789,769.00	750,739.00				
		単位コスト	0.46	0.61				
	成果指標4 []	予定						
実績								
単位コスト								
トータルコスト (千円)	予定	364,683	459,848	413,139	0	0		
	実績	365,697	459,848	413,139	0	0		
内 部 評 価	貢献度	上位施策の目標指標「社教施設利用者満足度」を向上させるためには、社教施設への関心や利用者数の向上が必要であるため、本単位施策の目標値達成度による貢献度は高い。						
	達成状況	アシストネット事業教育効果充実度は目標値を上回った。ボランティア交流会参加者数は目標値を約13%下回った。社会教育施設利用者数は目標値を若干下回った。						
	課題	ボランティア交流会については、行政職員と教員の参加者増が課題である。施設については、老朽化が進んでおり、計画的な修繕・再編等が必要である。						
	取組方針	ボランティア交流会については、行政職員、教員の参加しやすい環境整備を行う。施設については、計画的な維持管理を行うとともに、適正配置個別計画の検討を行う。						
外 部 評 価								
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	562401	社会教育関係団体補助金(栃木)				515	100	
	562402	社会教育関係団体補助金(大平)				2,456	100	
	562403	社会教育関係団体補助金(藤岡)				807	100	
	562404	社会教育関係団体補助金(都賀)				930	100	
	562405	社会教育関係団体補助金(西方)				810	100	
	562406	社会教育関係団体補助金(岩舟)				830	100	
	582301	とちぎ未来アシストネット事業費(栃木)				1,289	100	
	582302	とちぎ未来アシストネット事業費(大平)				1,666	100	
	582303	とちぎ未来アシストネット事業費(藤岡)				1,671	100	
582304	とちぎ未来アシストネット事業費(都賀)				861	100		

単位施策評価表 補表

施策	5201 生涯学習環境の充実		
区分	妥当性	妥当	社会教育法第5条に位置づけられている事務のため、市で行うことは妥当である。
	コスト削減の余地	無	本施策においては、社会教育施設の維持管理費が多くを占めているため、コスト削減は難しい。
	受益者負担	適正	使用料等の見直しについては、財政課主導の下、適宜行っていることから適正である。
	上位貢献度	有効	個々の事務事業の推進による貢献度が高いことから、単位施策貢献度が高いと判断した。
	類似事業の有無	無	
	成果向上の余地	有	施設の老朽化が進んでおり、適切な修繕により成果向上の余地があると判断した。
内部評価	貢献度	上位施策の指標「社会教育施設利用者満足度」を向上させるためには、社会教育施設の充実や利用向上のための個々の事務事業の推進は貢献度が高いと判断した。	
	達成状況	<p>とちぎ未来アシストネット事業による教育効果充実度については、目標値を上回っており、学校現場における教育効果は十分成果を上げていると思われる。</p> <p>ボランティア交流会は、継続・発展段階となりつつあるアシストネット事業にとって、重要な交流・情報交換の場となっており、参加者数は上向き傾向にある。</p> <p>施設に関しては、利用者数の減が目立つが、台風や新型コロナウイルスによる人々の行動の変化に加え、施設の老朽化に伴う不具合の発生が影響している可能性もある。</p>	
	課題	<p>とちぎ未来アシストネット事業については、年々成果を上げており、継続・発展段階となりつつある。</p> <p>ボランティア交流会は学校教員やPTAの参加者増が課題。</p> <p>施設に関しては、老朽化が進んでおり、計画的な修繕・再編等を行う必要がある。</p>	
	取組方針	<p>アシストネット事業については、課題を抽出し、その解消に向けて、地域間での情報の共有、連携により効率的効果的な事業の推進を行う。</p> <p>ボランティア交流会は、学校教員やPTAが出席しやすい環境を整備していく。</p> <p>施設については、引き続き計画的な修繕を行うとともに、公共施設の再編計画との整合性を図りつつ適正配置個別計画を検討していく。</p>	